

地域自然史と保全

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

特集 琵琶湖水源域朽木トチノキ林の危機と保全

Volume 34
Number 1
June 2012



関西自然保護機構
Kansai Organization for Nature Conservation

表 紙 の 言 葉

琵琶湖水源域朽木のトチノキ林

写真・文 前迫 ゆり

琵琶湖水源域朽木にはトチノキ、カツラ、サワグルミなどからなる溪畔林が成立しているが、なかでも胸高直径1 m以上のトチノキ巨木林は地域固有のハプロタイプを持つ貴重な存在である。2008～2010年に巨木トチノキが大量伐採される事態が生じた（詳細は本誌に掲載）。KONCでは2011年10月15日に現地見学会と地元住民との意見交換会を開催し、朽木トチノキ林の危機的状況と保全の必要性を再確認した。写真は、高島市朽木能家に生育するトチノキで、幹周604cm。落雷により幹に大きな空洞があるため材としては使えず、伐採を免れた。

写真：2011年10月15日撮影

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCは自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして、1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と、会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて、近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企画しています。

現在、次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は、個人会員・維持会員の会費により、まかなわれています。